

## 005 イエス・キリストの系図にある4人の女性(マタイによる福音書 1:1~17)

<p>マタイによる福音書 1 : 3          ユダは<u>タマル</u>によってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、          マタイによる福音書 1 : 5          サルモンは<u>ラハブ</u>によってボアズを、ボアズは<u>ルツ</u>によってオベドを、オベドはエッサイを、          マタイによる福音書 1 : 6          エッサイはダビデ王をもうけた。ダビデは<u>ウリヤの妻</u>によってソロモンをもうけ、</p>
---

### ▶タマル

ユダの長男エルの妻となった。夫エルが子を残さずに死んだために習慣に従ってその弟オナンと結婚したが、彼もまた子供を残さずに死んでしまった。本来なら、ここで彼女はユダの三男シェラと結婚するはずだったが、ユダはそれを拒み、タマルを実家に返した。子供を得ないままユダの家と絶縁することは、タマルにしてみれば社会的な保証を失うことだった。数年後、ユダが商用で近くの町に来たとき、彼女は遊女に変装してユダを誘った。ユダはそうと知らずにタマルと床を共にし、タマルは妊娠したが、彼女の妊娠を知ったユダはそれが姦淫によるものと考え、彼女を殺そうとした。このときタマルはユダから預かった印章と杖を見せ、彼女がユダによって身ごもったことを証明したのである。このためにタマルは許され、ユダの名を継ぐ双子ペレツとゼラを産んだ。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 11 / 聖句等の総数 33250 (タマル)12個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : タマル]
K 創世記	38:6 ユダは長男のエルに、タマルという嫁を迎えたが、	
K 創世記	38:11 ユダは嫁のタマルに言った。「わたしの息子のシェラが成人するまで、あなたは父上の家で、やもめのまま暮らしていなさい。」それは、シェラもまた兄たちのように死んではいけないと思ったからであった。タマルは自分の父の家に帰って暮らした。	
K 創世記	38:13 ある人がタマルに、「あなたのしゅうとが、羊の毛を切るために、ティムナへやって来ます」と知らせたので、	
K 創世記	38:14 タマルはやもめの着物を脱ぎ、ベールをかぶって身なりを変え、ティムナへ行く途中のエナイムの入り口に座った。シェラが成人したのに、自分がその妻にしてもらえない、と分かったからである。	
K 創世記	38:24 三か月ほどたって、「あなたの嫁タマルは姦淫をし、しかも、姦淫によって身ごもりました」とユダに告げる者があったので、ユダは言った。「あの女を引きずり出して、焼き殺してしまえ。」	
K 創世記	38:25 ところが、引きずり出されようとしたとき、タマルはしゅうとに使いをやって言った。「わたしは、この品々の持ち主によって身ごもったのです。」彼女は続けて言った。「どうか、このひもの付いた印章とこの杖とが、どなたのものか、お調べください。」	
K 創世記	38:26 ユダは調べて言った。「わたしよりも彼女の方が正しい。わたしが彼女を息子のシェラに与えなかったからだ。」ユダは、再びタマルを知ることはなかった。	
K 創世記	38:27 タマルの出産の時 came が、胎内には双子がいた。	
K ルツ記	4:12 どうか、主がこの若い婦人によってあなたに子宝をお与えになり、タマルがユダのために産んだペレツの家のように、御家庭が恵まれるように。」	
K 歴代誌上	2:4 ユダの嫁タマルはユダの子ペレツとゼラを産んだ。ユダの子は皆で五人であった。	
S マタイによる福音書	1:3 ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、	

## ▶ラハブ

要塞都市エリコの城壁のすぐ内側に住んでいた遊女で、ヨシュアが派遣した2人のイスラエル人スパイがやってきたとき、彼女は町の支配者に密告するどころか、逆に2人をかくまって、イスラエルの攻撃に協力した。兵はラハブの家に来て、家の中にいる者を引き渡せと命じた。しかし、ラハブは2人を屋上に積んであった亜麻の束の中に隠した上で、その2人は夕暮れに城門を出て行ってしまったので、どこへ行ったのかわからないと嘘の証言をしたのである。ラハブは2人のスパイに、イスラエルがエリコを攻めるときには自分の一族を助けてくれるようにと訴えた。スパイたちは約束し、戦いが始まったら一族の全員を家の中に入れ、窓に赤い紐を垂らしておくようにと告げた。こうして、エリコ陥落の日にもラハブの一族だけは生き残り、それ以降はイスラエルの民と行動を共にしたのである。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 11 / 聖句等の総数 33250 (ラハブ)11個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ラハブ]
K ヨシュア記	2:1 ヌンの子ヨシュアは二人の斥候をシテムからひそかに送り出し、「行って、エリコとその周辺を探れ」と命じた。二人は行って、ラハブという遊女の家に入り、そこに泊まった。	
K ヨシュア記	2:3 王は人を遣わしてラハブに命じた。「お前のところに来て、家に入り込んだ者を引き渡せ。彼らはこの辺りを探りに来たのだ。」	
K ヨシュア記	2:8 二人がまだ寝てしまわないうちに、ラハブは屋上の上って来て、	
K ヨシュア記	2:15 ラハブは二人を窓から綱でつり降ろした。彼女の家は、城壁の壁面を利用したものであり、城壁の内側に住んでいたからである。	
K ヨシュア記	2:21 ラハブは、「お言葉どおりにいたしますよ」と答えて、二人を送り出し、彼らが立ち去ると、真っ赤なひもを窓に結び付けた。	
K ヨシュア記	6:17 町とそこにあるものは、ことごとく滅ぼし尽くして主にささげよ。ただし、遊女ラハブおよび彼女と一緒に家の中にいる者は皆、生かしておきなさい。我々が遣わした使いをかくまってくれたからである。	
K ヨシュア記	6:23 斥候の若者たちは行って、ラハブとその父母、兄弟、彼女に連なる者すべてを連れ出し、彼女の親族をすべて連れ出してイスラエルの宿営のそばに避難させた。	
K ヨシュア記	6:25 遊女ラハブとその一族、彼女に連なる者すべて、ヨシュアが生かしておいたので、イスラエルの中に住んで今日に至っている。エリコを探る斥候としてヨシュアが派遣した使者を、彼女がかくまったからである。	
S マタイによる福音書	1:5 サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、	
S ヘブライ人への手紙	11:31 信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。	
S ヤコブの手紙	2:25 同様に、娼婦ラハブも、あの使いの者たちを家に迎え入れ、別の道から送り出してやるという行いによって、義とされたではありませんか。	

## ▶ルツ

イスラエルで最も偉大な王ダビデの曾祖母にあたるモアブ人の女性。大飢饉から逃れるため、ユダ族のエリメレク、妻ナオミと2人の息子はモアブの地に移り住んだ。エリメレクの死後、2人の息子たちはそれぞれモアブの女オルパ、ルツというその土地の女を嫁にしたが、10年ほどして息子2人は死んでしまった。母ナオミは残された嫁たちを実家に返し、自分は出身地ベツレヘムに帰ろうと考えた。このとき、オルパは母の説得に従ったが、ルツは違った。彼女は老いた母を捨てられないとあって、ナオミと一緒に他民族の地ベツレヘムに同行したのである。2人の暮らしは楽ではなく、ルツは他人の畑で落ち穂拾いをして家計を支えた。その畑の持ち主が偶然にも義父エリメレクの親戚である金持ちのボアズ（マタイによる福音書1:5a サルモンはラハブによってボアズを）のものだった。ルツがいかに献身的な女性であるかを知ったボアズは彼女を気に入り、間もなく2人は結婚したのである。

参考: ルツ (PDF ファイル)

## ▶バト・シェバ（ウリヤの妻）

イスラエル王ダビデの妻でソロモンの母。彼女はもともとヒッタイト人ウリヤの妻だった。ところが、イスラエルがアンモン人と戦争状態にあり、夫ウリヤが出征していたとき、エルサレムの町に残っていたダビデが、ある日屋上を散歩していると、とても美しい女が水を浴びているのが目に入った。それがバト・シェバであった。ダビデは欲望に駆られて使いの者をやり、人妻だと知っていながら彼女と床を共にした。彼女は妊娠し、ウリヤの存在を消そうとしたダビデはウリヤを危険な戦場に送り出して殺したのである。こうして、バト・シェバはダビデの妻となったが、神はこのダビデの行為を怒り、この関係から生まれた子はすぐに死ぬことになった。後に、ソロモンが生まれることになる。

タイトル(書名)	章:節 聖句	【検索対象総数: 10 / 聖句等の総数 33250 (バト・シェバ)11個】	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: バト・シェバ]
K サムエル記下	11:3	ダビデは人をやって女のことを尋ねさせた。それはエリアムの娘バト・シェバで、ヘト人ウリヤの妻だということであった。	
K サムエル記下	12:24	ダビデは妻バト・シェバを慰め、彼女のところに行って床を共にした。バト・シェバは男の子を産み、ダビデはその子をソロモンと名付けた。主はその子を愛され、	
K 列王記上	1:11	ナタンはソロモンの母バト・シェバに言った。「お聞きになってはいませんか。我らの主君、ダビデの知らないうちに、ハギトの子アドニヤが王となったということを。」	
K 列王記上	1:15	バト・シェバが王をその部屋に訪ねると、非常に年老いた王は、シュネム生まれのアビシャグの世話を受けていた。	
K 列王記上	1:16	バト・シェバは王の前にひざまずいて礼をした。王が「どうしたのか」と尋ねたので、	
K 列王記上	1:28	ダビデ王は答えて、「バト・シェバをここに呼びなさい」と命じた。彼女が進み出て、王の前に立つと、	
K 列王記上	1:31	バト・シェバは顔を地に伏せ、王に礼をして、「わが主君、ダビデ王、あなたの命がとこしえに永らえますように」と言った。	
K 列王記上	2:13	ハギトの子アドニヤはソロモンの母バト・シェバのもとに行った。彼女が、「穏やかな事のために来たのですか」と尋ねると、彼は、「穏やかな事のためです」と答えた。	
K 列王記上	2:18	バト・シェバは、「いいでしょう。あなたのために王に話します」と答えた。	
K 詩編	51:2	ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】	

参考：ウリヤとバト・シェバ (PDF ファイル)